

英語科学習指導案

日時 平成18年10月26日(金)5校時

学級 1年3組(39名 男子19名 女子20名)

指導者 中野芳明

Catherine L. Mallery

1 単元名 Unit 7 カナダの学校

(NEW HORIZON English Course Book 1 東京書籍)

2 単元について

(1) 単元について

本単元は、カナダの中学生ビルとのテレビ会議による対話から、情報を得ることが中心となる。「異文化理解」や「情報教育」についての入り口となる単元である。

これらの活動のために、wh-疑問文(Who や What time)を含んだ表現を用いて表現活動にさらに巾を持たせることを目標としている。この目標は、学習指導要領における次の事項と関わる。

第2章・第2節「目標」

- (1) 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

また第1学年の配慮事項として、言語活動においては「コミュニケーションに対する積極的な態度の育成を重視するとともに、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持や身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること。」となっている。このことを頭に入れながら、継続的かつ効果的に言語活動を取り入れることを指導する側の役割ととらえ、生徒の力を育てていきたい。

本単元はカナダの中学生として登場するビル(グリーン先生の弟)とのテレビ会議による対話から、情報を得るのが中心となっている。それぞれのPartの目標は次の通り。

Part 1 グリーン先生はテレビ会議を使った授業を行い、カナダの中学校に通う弟ビルと日本の中学生達がコミュニケーションできる場を設定する。

who...? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できることを目標にしている。

Part 2 カナダと日本の互いの時刻と天候を話題にする。

What time ...? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できることを目標にしている。

Part 3 学校生活について訪ねたり、それに答えたりすることを目標にしている。

Part 4 学校生活や所有物について訪ねたりそれに答えたりすることを目標にしている。

(Part 3, 4 は既習の英文を応用している)

(2) 言語材料について

既習の疑問詞が他の単語と結びついて「時間」をたずねる表現に应用されている。

Unit 4で What is ...? の文と応答の形・意味・用法を学んでいるが、ここでは What と time が結びついて時間をたずねる文とその応答を学習する。このような形は Unit 5で How long ...? で学習しているので受け入れられやすいと考える。

疑問詞については今後も学習することになること、コミュニケーションを持つ上では必要不可欠な言葉であることなどを考え合わせてもしっかりとした定着に結びつけてたい。

そこで、単位時間の中では基本表現の定着を目指し、反復練習等を効果的に取り入れたい。また授業の最初にゲーム等で継続的に取り組ませることで定着に結びつけたい。

「書くこと」についても「話すこと」の活動と関連づけながら、練習ノートを利用した反復練習や書き取り練習等に取り組ませることで定着させ、応用に結びつくよう導いていきたい。

(3) 生徒について

明るく活発な学級であり、授業中は落ち着いて取り組むことができる生徒が多い。

英語に対する興味・関心も高く、授業中の挙手による発言や自由発言も比較的多く見られる。また、普段の授業では表現活動に対しても前向きな姿勢で取り組むことができる。

「聞くこと」「読むこと」に対しては「できる」や「どちらかという得意」だと考えている生徒が半数以上見られる。一方で「読めない単語がある」等の不安から自信を持ってない生徒も見られる。

「話すこと」については授業の始まりに取り組んでいるゲーム等により、強い苦手意識を持っている生徒は少なくなっている。

「書くこと」に対しては「楽しい」と感じている生徒もいるが、やはり「綴りに自信がない」や「語順がよくわからない」等で苦手意識を持っている生徒が増えてきていることが、取り組みの観察やコミュニケーションの中から感じられる。

また、外国人指導助手との授業を心待ちにしている様子やコミュニケーションの様子から多くの生徒が英語を使つての交流ができるようになりたいという思いが伝わってくる。

(4) 指導の構想

本校の研究主題「学ぶ力を鍛える授業」に迫るために英語科では「基礎・基本を定着させるコミュニケーション活動のあり方」を教科研究主題として掲げている。すなわち、コミュニケーション活動場面において、自己表現の機会を取り入れることによって、生徒一人一人が基礎・基本的内容を理解し、自ら問題解決に向かう姿勢を養うことをねらう「学ぶ力を鍛える授業」が実現されると考える。

1年生に対する指導として「臆することなく表現活動に取り組む」ことができる環境作りを教師の役割の一つと考え、雰囲気作りやゲーム、またペアワークでの活動を取り入れながらの展開を心がけ、基本的事項の定着に結びつけていきたいと考えている。

また「学ぶ力」の一つとして辞書指導も取り入れている。この力は「自分を育てる力」ともとらえている。1年生では主に辞書を引くことに慣れ親しむことや一つの単語に様々な意味があること、段階的に品詞が複数あることも多いことも知らせていきたいと考えている。

【生徒の役割】

「どの活動においても間違いを気にせず、明るく元気よく、活動すること。」が基本となる。

自分なりに目標を持つこと。そして、その実現に向かって焦らず、しかし地道にがんばり続けることを生徒の役割ととらえている。

【教師の役割】

指導する側の役割の中心は定着を目指した練習をやらせることととらえ、有効だと思われる練習メニューを、繰り返し、飽きさせずにやらせることができれば、学ぶ側は力をつけることができると考

える。

3 単元の目標

- (1) 世界各地の時差について知る。
- (2) 人について、だれであるか尋ねたり、それに答えたりすることができる。
- (3) What time ~? の文と応答の形・意味・用法を理解し表現できる。
- (4) 学校生活について尋ねてみたり、それに答えたりすることができる。
- (5) カナダの国技であるラクロスやドリームキャッチャーについて知る。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
教科書の基本文を用いた対話や自分のことを英語で表現する活動に意欲的に取り組むことができる。	聞き手が理解できるように音読をする。また、自分の聞きたいことや表現したいことを英語で表現できる。	What time ~? の疑問文の意味を理解することができる。また教科書本文の内容を理解することができる。	What time ~? の英文の構造を理解して英文を組み立てることができる。また、情報交換に必要な表現を知っている。

5 単元の指導計画

時	到達目標
1	Part 1 テレビ会議について知識を深めるとともに、Who ~? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。
2 本 時	Part 2 世界各地の時差について知るとともに、What time ~? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。
3	Part 3 カナダの中学生の学校生活について知るとともに、学校生活について尋ねたり、それに答えたりすることができる。
4	Part 4 カナダの中学生の学校生活や部屋の様子などについて知るとともに、学校生活や所有物について尋ねたり、それに答えたりすることができる。
5	復習 Unit 7で学習したことを表現活動やプリント等を利用して確認する。

6 本時の指導

(1) 主題 「学校生活について尋ねたり、それに答えたりすることができる。」

(2) 目標

What time~?を用いた文の形・意味・用法を理解するとともに、自分の身の回りのことを英語でコミュニケーション活動をする。 【知識・表現】

F A Xの内容を読みながら、5W1Hなどの情報を把握することができる。【理解】

(3) 本時における【生徒の役割】【教師の役割】

本時の目標を達成するために、生徒及び教師の役割を次のようにおさえる。

【生徒の役割】

本時の学習課題を理解し、意欲的に授業に臨む。

学校生活について尋ねたり、それに答えることができる。

目標達成のため、コミュニケーション活動に意欲的に参加する。

【教師の役割】

本時の学習課題を明確にし、授業に意欲的に取り組ませる。

生徒が基本文を使って、表現できるように段階を追った指導を工夫する。

生徒が英語を自信を持って話せるように、適切な支援を心がける。

(4) 本時の評価規準

	評価規準	評価方法	Aの状況例	Cの状況例
知識	・What time~?を用いて、身の回りの状況等を書いて表現できる。	ワークブックやノートへの点検等	ワークブック等の発展問題等に取り組み、正答率も高い。	What time~?の語順を文法に沿って組み立てることができない。
表現	・What time~?を用いて、与えられた状況を表現できる。	ペアワークや発表する場面での観察等	英文を言うとき、暗記している状況が見られる。	単語の発音が曖昧で、声量やスピードも十分ではない。
理解	・What time~?を含む英文を正確に聞き取ったり、内容を理解できる。	教科書本文の内容について質問する等	5W1Hを意識して、英文の内容を正確に捉え、しっかり答える。	既習の単語であっても、その意味が定着していない等。

7 本時の展開案

段階	学習活動	生徒の活動	指導の留意点・評価方法
導入 10	1 あいさつと Warming Up 2 コミュニケーション練習 (前時までの復習)	・適切なスピード、発音で練習する ・クリスクロスに取り組む	・文法事項によって、適宜工夫をする。 ・暗記を意識させる。 適切な声量、スピードか(表現) 単純な課題作文ができているか (理解・表現)
展開 35	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> Today's Expression 時間を聞いたり、答えたりできるようになろう。 </div>		
	3 本文の理解 ・新出単語の練習 ・新出単語の品詞、意味 ・内容把握 ・音読練習	・口頭練習 ・意味の発表 ・本文の意味の発表 ・基本表現を含んだ文は暗唱しようとする ・意味のまとまりを意識して、音読する	・f, th 等の発音に注意させる ・辞典を利用して、知識を広げる 【教師の役割】5W1H を意識して、英文の内容を正確に捉えられるよう、援助する 【生徒の役割】要点をつかんで、発表する
	4 What time~? の定着 ・口頭練習 ・What time~? についての説明	・ワーク、プリントを使ってのキャサリン先生との口頭練習 ・What time~? について、練習で取り組んだことを意識しながら、まとめる	【教師の役割】口頭練習とワークの取り組みで、文の特徴をつかめるようにする。 【生徒の役割】与えられた状況を表現しようとする What time~? を用いて、簡単な問答ができる。(知識・表現)
終末 5	5 本時のまとめ 6 次時の予告 7 あいさつ	・What time~? について確認する ・自己評価をする	What time~? を含む英文を正確に聞き取ったり、内容を理解できる。 ・ワークシートに記入